

令和元年度（2019年度） 「第1回河川工作物AP会議」の振り返り
 （令和元年7月17日斜里町 ウトロ漁村センター）

I IUCNミッション招聘について

資料については英文で分かり易く表記する。資料集の軽量化を図る。

（事務局説明）

ミッション招聘に関する説明資料の内容等について、ルシャ川の治山ダムの改善方針には北海道より説明、ルシャ川の橋の取扱と河床路実証試験は北海道森林管理局より説明。

AP会議論点

- 「川の複線化」という表現が分かり難いので枝分かれ等の表現が適切。「土砂量増加」についても河床が上がる・下がるなどの表現が分かり易い。
- 資料集が多すぎる。図を減らしてキーとなる図だけにして平易な文章であるほうが良い。最初に要約的なものがあれば良い。
- 英訳については委員によるチェックが可能。

II 長期モニタリングについて

2-1 【オショロコマ生息状況等】水温結果については検定方法を工夫する。

（事務局説明）

オショロコマ長期モニタリングの平成30年度の評価案(評価チェック欄は空欄)を報告。

AP会議論点

- 「評価基準に適合・非適合」の評価と「改善・現状維持・悪化」の評価とのつながりが分かりづらい。
- 評価表において「改善・現状維持・悪化」の評価が先にあり、その下に「評価基準に適合・非適合」の評価があった方が理解しやすいのではないか。
- 評価できないものがあつた場合に「評価基準に非適合」を選択し、評価できる場合には改善・現状維持・悪化の評価を行うという見解がある。
- 水温の変化において、長期のデータを回帰分析すると統計的に有意になりやすい。自己相関係数を求めて自由度を少し補正すると、統計的に水温が上昇している、低下している河川が減ると思う。また水温上昇・下降が認められた河川のみを用いて符号検定を行えば、全体的な傾向を掴むことができる。

2-2 【長期モニタリング計画の評価項目の評価】評価方法についてはイメージ的に分かり易い表現（絵、色、矢印）を取り入れることを含めて検討を継続する。

（科学委員会事務局 環境省説明）

長期モニタリングの評価項目の見直し（追加、削除、入れ替え）を行ったこと、科学委員会と各ワーキングの役割分担について等を報告。

AP会議論点

- 3つの評価（○△×）だけだと評価が非常に難しい場合があり、5段階評価が適当な場合がある。
- 「改善・現状維持・悪化」はトレンドを示している。
- 17、18 モニタリング項目の評価結果が、V の評価項目の評価につながる。○△×を総合してV の評価項目の評価につなげるイメージ。

- モニタリング項目を評価結果の重み付けが必要では。会議では重み付けとどのよ
うに評価するかを議論すれば良いのでは。
- 評価を言葉だけでなく、絵・色で表現する、トレンドを矢印で表現する等、イメ
ジ的に分かり易い表現を取り入れると良いと思う。

Ⅲ ルシャ川の取組について

3-1 【ルシャ川ダム改良】本年度の作業終了時の姿は、一部右岸側に沿って流れるよ うにする

(事務局説明)

第2ダム、第3ダムの80cmの切下げ実施、第1ダムの側壁外側の盛土実施、第1ダムの下流の3列の石組帯工の実施、8月中に本年度の作業終了予定等を報告。

AP会議論点

- 右岸寄りの流れは本来の流れの箇所とを感じる。第2ダムを越えてくるサケは右岸寄りの流れに入っていく可能性が高いので、締め切り箇所で行き止まりにならないように右岸側の流れも確保した方が良い。
- 本流部分を切り下げているので、どうしても本流に流れが集まるので、かなり工夫がしないと右岸側の流れを維持できないと感じる。
- 右岸の流れは湧水だけではなく河川水も混じったものと思われ、湧水があるところでサケはよく産卵する。
- 右岸寄りの流れを維持していくなれば、上流蛇行部の石積部分を下げていくのがその方法となる。
- 右岸寄りの流れの水量は年々増加している感じがする。
- 計算等を踏まえて今の計画ができていますので、右岸寄りの流れの配慮はあまり重要な感じがしない。
- 少なくとも右岸寄りの流れに入り込んだサケが、上流への出口が無い状態となることは避けたい。
- 本年度の作業終了時の姿は、一部の流れが右岸側に沿って流れるのがベストである。

3-2 【ルシャ川河床路】河床路のモニタリングを実施する。

(事務局説明)

融雪出水の河床路への流入は無かったこと、冬季の波浪が河床路の低い部分の路盤(砂利)を流したが石組による路体の変状は見られなかったこと。

路盤の補修を行ったことを報告。

AP会議論点

- 波浪による流木の溜りにより波高の想定ができるので、どの程度の流水に相当するのか把握すれば外力の検討に役立つ。
- 定点カメラの設置位置は上から俯瞰できる箇所に設置するのが良い。

IV 第二次検討ダムについて

4-1 【オッカバケ川第2号治山ダム】本年度も切下げ工事、モニタリング調査を継続する。

(事務局説明)

平成29(2017)年、平成30(2018)年で計4回、約2mの切下げを実施したことを報告。本年度の切下げ工事、縦断測量・横断測量、粒度分布調査を継続し、新たに水位・流量観測を実施することを報告。

AP会議論点

- 上流側の中州がどのように侵食されて下流に流れていくか確認が必要。

4-2 【イワウベツ川 No3、No7ダム】イワウベツ川 No3、No7ダムの改良検討を進める。

(事務局説明)

イワウベツ川 No3、No7ダムを第二次検討ダムとして、本年度は溪流縦断測量、保全対象調査を、来年度はさらに地形・地質・土壌調査、水文調査、産卵現況調査を行うことを報告。

AP会議論点

- サクラマスが定着しつつあり、今後は自然産卵で個体群を増やせる状況となってきたので、再生産域を広げるのは重要な課題である。

V 第43回世界遺産委員会について

(事務局説明)

知床への世界遺産決議案は7月10日に修正のないまま承認されたと報告。

VI 河川工作物 AP 会議設置要綱の改正について

(事務局説明)

改正案を提案⇒承認された。